

おわりに

「未来への学校」調査の結果を、どのように読み解いていただけたでしょうか。本レポートの最後に、私たちみなさまへ、調査結果に基づくいくつかの提案をさせていただき、結びの言葉に代えさせていただければと思います。

●もっと開こう、地域と築く学校へ

学校に対する満足度は、外側からの批判的な目と、内側の当事者のほどほど感に分かれた結果でした。未来への学校は、もっと社会を開いていく必要があるのに、このままでは殻の中に閉じこもるばかりです。もっと、学校内外を隔てる「壁」を取り払っていく取り組みをしなくては。

●もっと進もう、知恵を育む学校へ

学校に期待される基礎力と応用力の習得。基礎力は期待どおりでも、応用力の面では期待に応えられないようです。受け身で学ぶには好都合だが、自ら考え、動き出すには不都合な学校、ということでしょうか。基本の技を知識として学んだだけでは、未来への前進がかないません。

●もっと使おう、資源を活かす学校へ

理屈だけではなく、体感してこそしっかりと身に付くということを大人たちは知っています。そのためには、持てる資源をフル活用しなくては。今の学校は、人、モノ、技術、情報、メディア、まだまだ工夫すれば活かせる学校の内外の資源を眠らせているようです。

●もっと集めよう、社会の総力で希望を持てる学校へ

特に日本では、学校は先生がその気にならなければ変わるものないととらえられているようです。学校の当事者である、先生と保護者の力で学校をよくするのは素晴らしいことです。しかしながら、もっと政府や政治家の知恵、地域の人々の知恵を信頼して、あてにできないのでしょうか。

まだまだ多くの発見のあった今回の調査でしたが、私は、これらの結果を眺めつつ、まだまだ希望を持てる日本の学校に未来を感じました。スウェーデンでも、同じように学校の未来を考えています。大きな違いもある両国ですが、これからも学び合って、高め合っていくパートナーであり続けられればと思います。

ヒューマンルネッサンス研究所について

株式会社ヒューマンルネッサンス研究所（HRI）は、オムロン株式会社 100%出資による、未来を展望する社会・生活研究シンクタンクです。

オムロンでは、創業者の立石一真が 1970 年に発表した未来社会シナリオ「SINIC 理論」(Seed-Innovation to Need-Impetus Cyclic Evolution) を、未来予測の拠り所としています。これは、科学・技術・社会の相互の円環的関係をもとに過去から未来へのシナリオを描いたもので、このシナリオに基づくと、これから 21 世紀半ばに向けた社会は、これまでの「工業社会」から「自律社会」へと大きなパラダイム・シフトを遂げると予測されています。そして、その変化の渦中にある現在は「最適化社会」に位置づけられています。日本社会を見渡すと、情報化、少子高齢化、地球環境問題など、これまでの社会の流れの延長線上をたどるだけでは、先を見通しにくい状況にあるのは確かです。

しかし、このような時代だからこそ、信頼できる未来への羅針盤を持ち、「人間が、より人間らしく幸せに生きることができる社会」への道筋を明らかにしていくことが大切であり、企業はそのために「社会の公器」として役立ち続けてこそ、未来から選ばれる企業となり得るのではないかと考えています。

このような背景をもとに HRI では、自律した多様な個人が互いに認め合い、支え合い、刺激し合って、共に生きる社会を「自律社会」のコンセプトととらえて研究を進めています。そして、これからの科学・技術の動向も踏まえ、社会システムや、「学ぶ」「働く」「遊ぶ」といった生き方や暮らしに関するテーマを掲げ、国内外の未来研究機関とのコラボレーションを含めた調査研究を展開しています。

株式会社 ヒューマンルネッサンス研究所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-1-5 虎ノ門45 MTビル3F

Tel.03-3438-0920 / Fax.03-3438-0921

URL: <http://www.hrnet.co.jp>

発行日／2007年6月25日

発行人／中松康記

編集人／鷺尾梓

編集・製作協力／ふくろうの木

本文デザイン・DTP・印刷・製本／有限会社 オリジナルブックマイン

表紙イラスト・デザイン／広浜綾子

※本データを掲載いただく際には、ご一報くださいようお願い申し上げます。